

# 盛岡聴覚支援学校

## 研究テーマ

「人とのかかわりの中でことばの力を高めるための支援の在り方」（2年次研究2年目）

### 1 全体研究

#### (1) 主題設定の理由

文部科学省では教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力の中でも、言語能力を構成する資質・能力は、子どもたちの学習や生涯にわたる生活の中で極めて重要な役割を果たすものであるとしている。

本校の教育目標は、「豊かな感性と思考力、しなやかな心と体、思いやりをはぐくみ、自らを知り高め未来を切り開く人間を育成する。」である。個々の実態に合わせた音声、手話、文字、指文字を活用した対話、わかりやすい授業を工夫する中で言語力を伸ばし、将来社会で生きるために必要な思考力・判断力・表現力の向上を図ることを重点としている。

また、前研究のまとめとして、「思考力・判断力・表現力」を育むためにはことばの力を高めることが必要不可欠であること、人とのやり取りの中でことばの力が高められることを共通理解した。

以上のことから、人とのかかわりを通してことばの力を高めることが、幼児児童生徒にとって生きる力の育成につながると考え、本テーマを設定した。

※本研究で「ことば」とは、音声、手話、指文字、文字、身振りなど意味のある表現を指す。

#### (2) 研究の目的

幼児児童生徒が人とのかかわりを通して、ことばの力を高めるための支援の在り方を明らかにする。

#### (3) 今年度の実践

##### ①全校研究会

5月： 校内研究2年目の方向性の確認

10月： 各学部の研究について中間発表

1月： 2年次研究のまとめ

##### ②学部研究会（11回）

各学部でテーマを設定した研究会

##### ③全校授業研究会

幼稚部：学級活動「サーキットをしよう（運動遊び）」

### 2 各学部研究

#### (1) 幼稚部：「幼児が自分の思いをことばで表現する

1年次は校外活動の事前事後の遊びの様子、2年次は単元（題材）遊びの様子を取り上げ、単元ごとに目指す姿を確認した。

#### (2) 小学部：「個々の言語発達の実態に応じた指導の工夫」

1年次は実態把握と日記・作文指導、2年次は言語活動の工夫、授業検討に取り組んだ。児童の気持ちを読みとりながら、ねらいを変更し、支援の手立てを検討した。

#### (3) 中学部：『伝える力』『伝わることば』を身に付けるための授業実践」

1年次、2年次共に身に付けたい力の確認、指導内容の検討、授業検討に取り組んだ。重複学級では、教科担当と連携するための取組をした。

#### (4) 高等部：「それぞれの生徒に応じたコミュニケーションの力を育てる～文字など様々なツールの活用について考える～」

自立活動の時間に焦点化し、1年次は学級ごと、2年次には全体指導での活動に取り組んだ。2年次は、生徒・職員のアンケートから筆談についての内容を取り上げ、実践した。

#### (5) 寄宿舎：「正しいことばを身に付けるための支援の在り方～聴覚障がい者の特性に配慮した実態把握と支援～」

1年次には実態把握内容表の作成、2年次にはグループごとのことばの学習会を実施した。「知る」「広げる」「使う」場面を設定して取り組んだ。

### 3 講演会

演題：「人との関わりの中でことばの力を育てるための支援の在り方～その先に求めるもの～」

講師：東京学芸大学 副学長 濱田 豊彦氏

期日：令和5年7月28日（金）

参加者：71名

### 4 研修会

・職員研修会 全8回（うち4回は外部公開）

### 5 他の教育研究機関との連携

・全日本聾教育研究大会奈良大会

・東北聾教育研究会（五部研）

・岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究会